



1 群馬県支部長あいさつ

支部長 高原 きよ美

会員の皆さまには、日頃より支部活動に御協力いただき深く感謝申し上げます。

令和7年度も残りわずかとなり、保健師長会の行事もほぼ終了となりました。今回は今年度に行われた主な行事について報告します。引き続き皆様と力を合わせて、よりよい活動を推進していきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。



＜第47回全国保健師長会代議員総会に参加して＞

令和7年11月15日（土）に徳島県で開催された第47回全国保健師長会代議員総会に出席しました。

総会では令和6年度活動報告、決算報告、令和7年度事業経過報告、予算案及び令和8年度事業計画（案）、予算（案）が承認されました。

研修会の基調講演では「多様性の時代に求められる管理職保健師の対応能力とは」をテーマに、2040年を見据えた人口減少・高齢化・地域格差拡大・在宅医療需要増などの社会の大きな変化に適応するための方策についての講演がありました。特に定型業務はAIを活用し、保健師は共感や複雑事例への対応など人間ならではの領域に集中する戦略が重要であること、また管理職保健師には社会の動向を見極め、地域全体をとらえるとともに、必要な人材を確保し、他機関・多職種・住民と協働していく力が求められることが強調されました。さらに、実践報告では奈良県内の町で副町長を務める方や徳島県保健福祉部の前副部長の方から発表がありました。「保健師は専門職であり行政職でもある強みを持ち、地域の課題をアセスメントし、政策につなげることができる。また、特定の武器を持たない柔軟性も強みであり、これらを自覚し対応していくことが重要である。管理職保健師には、ジェネラリストとしての視点、行政を理解する専門職としての知識、現場の実態を踏まえた意見や提言を行う力が求められる」とのお話でした。

社会の変化に対応するため、AI活用と人間ならではの役割の明確化、地域全体を見渡す視点、そして協働力がますます重要になると感じました。今後の業務に活かしていきたいと思っております。

2 令和 7 年度第 2 回支部研修会について

令和 8 年 1 月 24 日（土）、ぐんま男女共同参画センターにて開催されました。

講演内容は「災害時の保健活動～避難所等の衛生管理・感染症予防対策～」をテーマに、オフィス環監未来塾代表中臣昌広先生からご講義をいただきました。

34 名の会員等の皆様の参加のもと、グループワークでは災害時の避難所で起きることを考え、実際の現場で何ができるのか積極的な意見交換をすることができました。

【感想】

県保健福祉事務所保健師

今回の研修会では、災害時の保健活動について、保健所の環境衛生監視員としての経験を持ち、実際の被災地に数多く足を運ばれている中臣昌広先生からお話を伺いました。

事前に参加者が回答した質問の集計結果を踏まえながら、講義やグループワークが行われる中で、特に印象に残ったのは、「常識にとらわれず、その時の最善策をチームで考えること」の大切さでした。



体育館を使用する避難所では「土足禁止」が当然だと思っていましたが、低体温症への対応やガラス片等によるけがの防止、靴の盗難防止、余震時の迅速な避難行動などを優先すべき場面では、あえて土足禁止にしないという選択もあることを知り、新たな気づきを得ました。

日頃からの備えや関係者間での情報共有の重要性を再認識するとともに、「命と健康を守る」という視点を常に意識し、今後の災害時保健活動に活かしていきたいと感じました。

市町村保健師

令和 8 年 1 月 24 日（土）に開催された全国保健師長会群馬県支部研修会に参加し、中臣昌広先生による「災害時の保健活動～避難所等の衛生管理・感染症予防対策～」の講義を受講しました。災害時の避難所では、限られた環境や資源の中で迅速かつ柔軟な判断が求められることを、具体的な事例を通して学ぶことができました。

特に印象に残ったのは、災害対応には唯一の正解がなく、最終的なゴールを常に意識しながら、その時々状況に応じて判断し、軌道修正していくことが重要であるという点です。最初から理想的に進まなくとも、関係者との調整や新たな気づきをきっかけに改善していけばよいという考え方は、実務にも通じるものでありました。

また、保健師同士のグループワークを通じて、多様な経験や視点を共有できたことは大きな学びとなりました。今回の研修で得た知見を、平時の備えや災害時の保健活動に生かしていきたいです。

【皆さんの声（アンケートより）】

講義の感想

- ・避難所運営の際の新たな視点を持てた。
- ・環境の視点の気づきを得られた。
- ・空気の流れを確認するなどの視点が勉強になった。
- ・いろいろな状況を考慮しながら、最善策を考えると
いうことが理解できた
- ・具体的にイメージして考えることができた。
- ・避難所の衛生対策について、環境面からのアプローチ
が分かったので良かった。
- ・講師の説明が分かりやすかった。
- ・新しい視点や考え方を学ぶことができた。
- ・いろいろな考え方があり、グループで考えることができた。
- ・新しい情報や最適解のための考え方など、とても勉強になり、具体的に多くのことを考えるきっかけ
になった



今後に活かそうと思ったこと

- ・唯一の正解はない。最終ゴール地点を持つ。グループで考える。
- ・寒さ対策と粉じん対策。理想論で進めない。
- ・あらゆる角度でみんなで考えること
- ・普段の活動の延長線上に災害の保健時活動があるということを改めて考えられ、多角的な視点と選択肢
を持てるようにしたいと思えたことを自身の所属で話し合う機会を作りたい。
- ・平時からさまざまな着眼点を意識する。周囲と話し合える土壌を作る。
- ・災害支援はチームで考えることが大切であること。

3 北関東・甲信越ブロック研修会（担当 茨城県支部）

(1) 日時 令和7年10月25日（土）午後1時～4時30分

(2) 内容

①全国保健師長会活動報告 全国保健師長会 会長 前田香氏

②講演 「つなぐ力を育てる-中堅期保健師への伴走と実践的支援-」

講師 武蔵野大学看護学部長・教授 中板育美氏

③保健活動実践報告

【報告1】「キャリアラダー調査研究部会」の活動について

茨城県保健医療部保健政策課 長洲奈月氏

【報告2】「持続可能なげんきな体！～12歳からのSDGs～」

新潟市秋葉区役所健康福祉課 安達恵子氏

【報告3】「地域における保健活動の実践に向けた体制づくり」

長野県松本市保健所健康づくり課 落合美保氏

④グループワーク（情報交換）

テーマ「保健師としての自分らしさを言語化しよう」

～保健師として大切にしてきたこと、これから伝えたいこと～

＜北関東・甲信越ブロック研修会に参加しました＞ 前橋市 保健予防課 野本涼子

研修会は、「未来に紡ぐ統括力と公衆衛生看護活動の実践」ー2040 年を見据えた地域に根づくマネジメントと保健師人材育成ーをテーマに行われました。

講演では、人口減社会のあり方、前倒して健康づくりをし、健康状態を長く保つことの大切さ、押し付けても解決は困難であること、主役は住民であり、専門家や周囲の人は住民の健康づくりの後押しをするサポーターであることなどのお話がありました。

また、人材育成については、2040 年にむけて行政変革が迫られる中、若手職員のエンゲージメント（組織との信頼関係）の向上が課題であり、「組織の目指す姿を若手に共有する」「若手のロールモデルになる」「若手のキャリアパスを意識して関わる」「若手を適切に評価する」など幹部・上司がリーダーシップを発揮することが必要とのお話がありました。グループワークでは、保健師としてこれまでの保健活動で大切にしてきたこと、後輩に伝えたいことなどを共有でき、貴重な機会となりました。

研修会のプログラムや資料は、全国保健師長会ホームページにアップされていますので、ぜひご覧ください（全国保健師長会トップページこんな活動していますーブロック活動ーブロック活動報告ー北関東甲信越 <https://www.nacphn.jp/O2/block/>）

4 令和 8 年度全国保健師長会県支部総会及び研修会について【重要！】

- ① 開催日 令和8年6月6日（土） 午前 10 時から
- ② 場 所 ぐんま男女共同参画センター
- ③ 内 容
 - ・ 令和 8 年度全国保健師長会群馬県支部総会
 - ・ 第 1 回支部研修会（詳細については後日連絡いたします。）

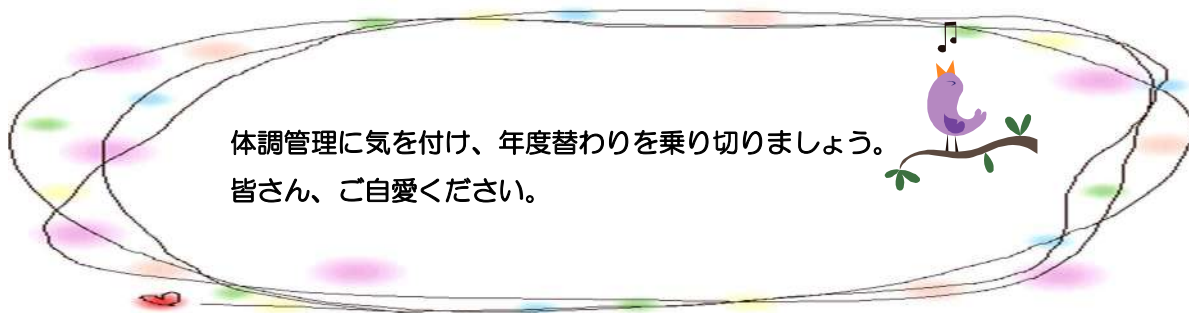
会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

未加入の方がお近くにいらっしゃいましたら、是非お声かけください。

顔を合わせながら、情報交換をしたり日頃の悩みを言い合える貴重な場です。

役員一同、その魅力を高められるよう努力してまいります。

今後とも本会活動へのご理解、ご協力をお願いいたします。



体調管理に気を付け、年度替わりを乗り切りましょう。
皆さん、ご自愛ください。